HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国ネット世論形成におけるネットオピニオンリーダーの役割研究［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	劉, 亜菲
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(学術)
Dissertation Number	甲第13190号
Issue Date	2018-03-22
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/70661
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Liu_Yafei_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（学術）　　氏名：劉　亜菲

審査委員	主査　准教授	西　　茹
	副査　教授	藤野　彰
	副査　教授	江口　豊
	副査　教授	鈴木　純一

学位論文題名

中国ネット世論形成におけるネットオピニオンリーダーの役割研究

言論統制下の中国の政治体制において、インターネットの発展により中国の情報環境と人々の情報行動が大きく変わった。辺鄙な山村で起きた出来事でも、全国ないし国際社会から注目を集めるケースがしばしばみられる。時に巨大な力を持つネット世論が政治にも圧力を加える。こうしたネット世論形成に積極的に働きかけるのがネットオピニオンリーダーである。先行研究では、インターネットが人々に発言権を与え、さらに民主化の機運を運んでくるだろうという仮説のもとで、ネットオピニオンリーダーの世論形成の促進機能が重要視された。一方で、その促進機能の発揮に必要な社会的条件、政治的条件が軽視されがちであった。執筆者はネット世論空間を変動する中国の政治と社会の脈絡においてその正体を現実的に捉えようとしており、ネットオピニオンリーダーの役割の全面的な解明には一般網民（ネット利用者）、伝統メディア、党・政府公権力との相互関係の視点から実証的に考察を行う必要があると主張する。

研究成果として、中国におけるネットオピニオンリーダーは、情報提供者、意見形成の指導者、網民と伝統メディアの議題設定者、意見の集約者として、ネット世論形成を促進する一方で、問題を惹き起し、限界も抱えるといった二面性を持つこと、ポジティブな役割にしても、ネガティブな役割にしても、一般網民、伝統メディア、公権力といった外的要因に大きく影響されていることが明らかになった。

論証は五つの章で展開された。第一章では世論に関する理論を検討した上で、ネットオピニオンリーダーを定義し、本研究の分析の視点を提示した。第二章では、技術の進展に伴うネットオピニオンリーダー現象の変容を考察し、先行研究をレビューした上で、本研究の視点の独自性を示した。第三章では、制度的環境の特徴とネットコミュニケーション構造の特徴といった側面から、ネットオピニオンリーダ

ーと一般網民、伝統メディア、公権力との相互作用を明らかにした。第四章では、労働教養制度の改革・撤廃という議題をめぐるネット世論の形成過程を取り上げ、ネットオピニオンリーダーの多様な役割を実証的に検討した。終章では中国ネット世論形成の特徴、政治と社会に及ぼす影響及び問題点をめぐる議論を展開し、今後の課題を展望した。

１月１５日に実施された口頭試問と審査は１時間５０分にわたって行われた。質疑応答では、以下のような指摘がなされた。

①ネット言論空間におけるオピニオンリーダーの役割という問題の核心は、実は、現代中国における知識人と政治との関係性にある。この課題をもっと大きな問題意識で捉える必要もあり、そういう意味で、歴史的な連続性の視点がやや不足しているのではないか。②論文の実証的検討では、唐慧労教案だけではなく、複数の事例を研究対象として比較するとより説得力のあるものになるのではないか。③概念装置としてネットオピニオンリーダーを規範的ものに限定したが、一方で、世論の概念は規範概念と実態概念の両方があり、二重性を持つものとして扱っている。あえてそういう形を取った理由は何なのか。それらの意見や質問に対して、論文執筆者から丁寧で明解な回答が得られた。

審査では、本論文は次の点で評価された。①これまでの先行研究は中国の制度的な制約を打破できていないが、本論文はその制約を破ってネットオピニオンリーダーの役割を全面的にとらえようと試みる研究となり、従来の研究を大きく発展させた。②また、ネットオピニオンリーダーの役割の解明には、ネットオピニオンリーダーだけではなく、ネット利用者、伝統メディア、権力者との関係から考察されており、この視点の学術的意義は大きく、かつ本研究の独自性が認められる。③流動性の高い中国ネットオピニオンリーダー現象の発生メカニズムについて、インターネットと伝統メディアの関係、ネットコミュニケーション構造の「脱中心化−再中心化」の観点から、説得力のある分析が行われた。④事例研究においてはネットオピニオンリーダーの役割と問題点を実証的に検証するため、膨大な資料を丹念に調べ、重層的に緻密な考察を行い、仮説を十分に裏付けた。

問題点として、概念設定と事例分析の結果について整合性をとる議論がやや不足し、記述の表現上の問題も残されているが、本論文の意義を損なうものとはいえず、総合的に見て、この論文は、執筆者が高度な研究能力を有することを示すものであり、博士論文としての要件を十分に満たしていると審査委員は全員一致で判断した。よって、論文執筆者は北海道大学博士（学術）の学位を授与される資格があるものと認めた。